

事業の概要

1. 派遣期間 令和元年7月28日（日）～8月5日（月）
2. 派遣先 中華人民共和国上海市嘉定区
3. 派遣人数 中学生1名、高校生1名、引率者1名 合計3名
4. 研修日程等

日付	曜日	内容
4月1日	月	派遣学生募集開始
4月26日	金	派遣学生募集締め切り
5月18日	日	面接試験（太田市南庁舎）
6月1日	土	第1回派遣学生研修会（太田市南庁舎）
6月15日	土	第2回派遣学生研修会（太田市南庁舎）
7月13日	土	第3回派遣学生研修会（太田市南庁舎）
7月28日	日	成田空港発
8月5日	月	成田空港着（太田着）
8月21日	水	帰国報告会（太田市役所4階 庁議室）

5. 現地日程

日付	曜日	内容
7月28日	日	到着
7月29日	月	嘉定青少年科創センター見学・上海交通高校授業見学
7月30日	火	嘉定博物館見学・ウェルカム&オープニングセレモニー
		上海自動車博物館フォーラム・見学
7月31日	水	上海観光（上海動物園・ユウガーデン・ナイトクルーズ）
8月1日	木	無形文化遺産体験・点心作り
8月2日	金	崇明島観光
8月3日	土	ホストファミリーデー
8月4日	日	フェアウェル&クロージングセレモニー
8月5日	月	帰国

2019 Jiading International Youth Friendship Camp

6. 参加国

No	国	都市
1	日本	群馬県太田市
2	日本	鹿児島県霧島市
3	ハンガリー	ペーチ市
4	ニュージーランド	ハウラキ区
5	ドイツ	ヴォルフスブルク市
6	セルビア	ベオグラード市
7	スコットランド	エディンバラ市
8	フランス	バステティア市
9	アメリカ	ソルトレイクシティ市
10	ロシア	モスクワ市
11	ウクライナ	キエフ市

7. 上海市嘉定区概要

上海市嘉定区は、上海市の北西部に位置し、面積は463平方キロメートル、人口は約164万人であり、人口は急増している。区名は、南宋の時代の年号（嘉定）からとった名称（嘉定県）で、2018年に建県（現在は区）800年を迎えた。「教化嘉定」として、教育と文化に力を注いでおり、歴史文化遺産も多数あり、昔から文化的有名人をたくさん輩出している。

自動車産業が盛んであり、フォルクスワーゲンの製造工場やボルボの生産本部や研究開発センターがある。部品製造企業や研究開発企業も多数ある。1958年に科学技術衛星都市として上海市から指定を受け、中国科学院の科学研究所が数か所あり、各種研究機構も多数ある。

2019 Jiading International Youth Friendship Camp

団長

7月28日から8月5日までの9日間、引率者としてこのキャンプに参加しました。10ヶ国11都市から参加者が集まり、各都市に1名現地の学生が同行し、様々な体験をすることにより交流を図ることができました。

キャンプでは文化体験や観光など様々なイベントが企画されていて、ホストファミリーデー以外は嘉定区外事弁公室の職員の方が引率をしてくれました。中国文化や観光地の説明が英語で行われるため、英語のスキルアップをしながら異文化体験を異国の仲間と共有することによって友情を深めるという大変貴重な経験をさせていただきました。

太田市の参加者は同じく日本から参加した鹿児島県霧島市とフランスから参加したバスティア市のメンバーと仲良くなり、ほとんどの時間を一緒に過ごしました。また、この3都市に同行してくれた現地の学生も一緒に行動していたので、日本・フランス・中国間で言葉を教えあったり遊びを教えあったりと終日楽しい時間を過ごせました。

引率という立場での参加だったので、キャンプのルール以外では夕食後に出かける時には現地の学生が安全に家に帰ることができる時間に解散をすることを毎日意識していました。それ以外はできるだけ学生達が自由に交流できるようにしていたので、楽しく過ごせたのではないかと思います。

ホストファミリーデーでは中国人が普段どんな生活をしているかを実際に家に訪問して体験させていただきました。コミュニティ内にある小学校、中学校、大学へと案内してもらい、お昼には家の近くのラーメン屋で日本の味との食べ比べをさせてくれました。対照的に夜は典型的な中国料理をごちそうになり、1日ではありましたが、中国人の生活を体験することができました。この日は日本語が話せる子も一緒に行動していたので、日本の事をたくさん伝えることができました。日本の事をたくさん質問されることにより、改めて日本の事を考える良いきっかけになったと思います。

今回のキャンプで一番驚いたのは、中国の学生が日本の歌を知っていて日本語で完璧に歌えたことです。日本のアニメやゲームが国境を越えて世界に羽ばたいていたことを実感しました。日本語を話せたり、日本の事を色々知っている学生が多かった事はとても喜ばしいことでした。

初日の夕食と最終日の夕食は同じメニューでした。初日はあまり箸が進まなかった私達が、最終日はとても美味しくいただきました。同じホテルのレストランなので、味付けが変わったのではないでしょう。初日は4人だけで期待と不安の中で食べた夕食、最終日は仲良くなった11人で別れを惜しみながらも楽しく食えることができた夕食の違いがあったからだと思います。短い期間でしたが、中国文化を理解し、異国の友達もできて食事も美味しくいただけるほど充実した日々が送れた結果がこの食事に現れたのだと思いました。

キャンプ終了後、時間の経過とともに今回のキャンプに参加して良かったという気持ちが強くなっています。インターネットで大抵のことはわかる時代ではありますが、やはり直接その国の空気を感じて、人と接することでお互い理解しあえる関係になることができるということ

2019 Jiading International Youth Friendship Camp

を思い出させてくれたからです。先入観を持たず、正面から向き合うことでお互いの文化を理解することの重要性を改めて感じました。世界の様々な地域で争いが絶えない時代ですが、若い世代からこのような交流の輪が広がれば、平和になる日も近いのではないかと思います。これからもこのキャンプが続くことを願っています。

最後に、このキャンプに参加することを理解し、協力していただいた職場の皆様、国際交流協会の皆様、現地で関わっていただいた皆様に感謝いたします。今回の経験を今後活かしていければと思います。

ぐんま国際アカデミー高等部 1年男子

私はこの夏、太田市の代表として一つ下の中学生と共に国際交流と中国文化交流をメインとした嘉定国際青少年友誼キャンプに参加させていただきました。今回のキャンプに集まったのは、11都市、総勢22人の生徒+上海の学校に通う11人の生徒で、集まった生徒の国が自分もまだ行ったことない国ばかりで上海空港に着いた瞬間から終始、愉悦感に浸っていました。私は、中国にまだ足を踏み入れたことがなかったので、とても不安でした。

この9日間たくさんのイベントがあり、観光から文化体験、いろいろなことをさせていただきました。またこれらのイベントを通すことで外国人の生徒との距離も縮まり、国際交流をよりよくできたと思います。私の学校では、外国人教員はたくさんいますが、外国人の生徒はさほどおらず、今回のキャンプを通してたくさんの同世代の外国人の生徒と交流ができたのは、私にとって大きな進歩であり、刺激でもありました。そんな中、外国人とコミュニケーションをする上で、一番話題に上がったのは、日本のアニメカルチャーでした。7月の中旬に起こった京都アニメーションの放火事件のことやアニメについてのマニアックな情報をたくさん知っていて驚きました。日本の文化が世界にまで浸透していて、なぜか自分が誇らしく感じてしまいました。アニメだけに限らず、日本の料理は美味しいねと褒めていたり、とても礼儀正しいとっていました。

このキャンプに参加する前は、中国に対する偏見や悪い印象しか正直言うとありませんでした。中国という地は、空気が汚染されていて、事件も多発しています。私がこのような偏見を持つようになったのは、ニュース番組を見てです。中国のニュースを聞くときはいつも空気汚染のことや事故または事件が起きてまるでメディアが中国を悪くいつているようにしか思えないような内容を多々見受けます。その影響もあってか、中国に降り立った瞬間から、「空気が重いな」などと思い込みをしてしまいました。その日の夕食も初日は、あまり手を付けられない状態にいました。しかし、次第に現地の生徒たちや集まった生徒たちと話しているうちに、中国に対して持っていた、偏見がなくなっていきました。キャンプでできた友達でテーブルを囲みみんなで食事をすることで料理もいつしか美味しく感じ、キャンプの半ばからはとても有意義に過ごせました。

日本のメディアは、中国を悪いように報道している割には、中国は日本と比較してとても進

2019 Jiading International Youth Friendship Camp

んでいる国でした。お会計はほぼ全て端末を利用しての決済やどこに赴いても厳重な警備。確かに道路は舗装されていなかったりと少し劣っているところもありますが、それらを抜けば日本よりもとても優れている国であると私は思います。幼児からのプログラミング授業や携帯の5G機能など。機械的技術面はとても優れていました。私は「もう日本はすでに中国に抜かれているのでは？」と強く感じました。

このキャンプを通してたくさんの方のことを勉強できる機会を得ることができました。それは紛れもなく特別なもので、もうこの先に一度もない特別な思い出となりました。中国で学んだことを忘れず、来年控えているオリンピックのためにこの地域に貢献をします。来年は多くの外国人観光客が来日するのが予想されていて、その中でももっとも多いのが日本から近い中国です。来日する中国人や外国人のためにも、日本がより住みやすく充実できる環境づくりを目指していきたいと思っております。この度はこの貴重な機会を与えてくださり誠にありがとうございました。

尾島中学校 3年女子

私は、2019年中国・上海嘉定区友誼キャンプに太田市の代表として7月28日から8月5日の9日間行ってきました。このキャンプには、10か国11都市の学生と中国の高校生が、上海にある嘉定区に集まり、異文化交流や中国の歴史と一緒に学び、国際理解を深めることが目的です。たくさんの方の国から学生が集まるので、滞在中の言語は英語で会話をします。私は、今回のキャンプが初の海外で、英語も中学校で学ぶ知識しか持っていなかったもので、出発前は、不安と緊張で眠れなかったのを覚えています。ですが、その不安は、活動をしていくうちに自然と無くなりました。なぜなら、どの国の学生さんも引率の先生も、優しく私の拙い英語を聞いてくれて、一人でいたり、バスの席で隣になると気さくに話しかけてくれたからです。そのお陰で、自分からも話しかける勇気が湧き、閉会式で話した子には「あなたはとてもフレンドリーで話していて楽しかった」と言ってもらえることが出来ました。

私は、この事業に応募した理由に「音楽」そして「世界を自分の目で見てみたい」という2つを上げました。話す人、話す人に「あなたは音楽が好きですか?」「どんな曲を聴きますか?」と聞いて回りました。一番印象に残った答えは、中国の高校生たちから

「米津玄師のLemonを聴くよ。」

と聞いたことです。他にも、アニメの曲や映画の曲、たくさんの方の日本の曲が中国の高校生から聞いて母国の曲を知ってくれていることがとてもうれしかったです。

他にも、「将来の夢は?」と聞くと、

「僕は一級建築士になりたい。」

「私はまだ決まってないよ。」

と、学生らしい会話はどこの国でも変わらないことを知りました。

そして、私が自分の目で見て感じたことは、偏見や勝手な想像だけでは本当のことは見えてこな

2019 Jiading International Youth Friendship Camp

いということ。現代はネット社会、どんな情報も手に入れることができます。でも、その多くは他人の憶測や偏見に過ぎないのです。私も中国に行く前は偏見を持っていました。「汚そう」「怖そう」、ですが実際にその土地に自分の足で踏み込むと「分別されたゴミ箱がある」「これが本場の中国語で音の強弱が強いだけなんだ」と新しい発見がたくさんありました。この体験から、帰国後は常に自分の意志や考えを持つようになり、出国前の私と帰国後の私の大きな心の変化でした。他人の意見よりまずは自分の意見や考えを持つことで、違う考えに気付いたり、意見を交換することができるのだと思います。

私は、このキャンプを通じてたくさんの人と出会いました。言葉も違えば、文化も違う。ですが、一人の人間であることに違いはありません。住んでる国は違っても、例えば私には「音楽」という繋がれるものがあり、このキャンプでたくさんの新しい音楽を知りました。英語の聞き取りにも前より自信ができました。何事も挑戦し、お互いを知ることがどの世界でも大切なのだと思います。ここでの体験や出会いは私にとって一生ものになりました。これからもこの経験や出会いを大切に、さらに英語に興味をわいたので英語力を強化し、将来私のように自分の目で世界を知ろうとしている人の助けになれるような職業に就きたいです。

最後に、このような機会を与えていただけたこと本当にうれしく思います。また、支えてくださった皆さん、家族に感謝します。ありがとうございました。以上で、帰国報告とさせていただきます。